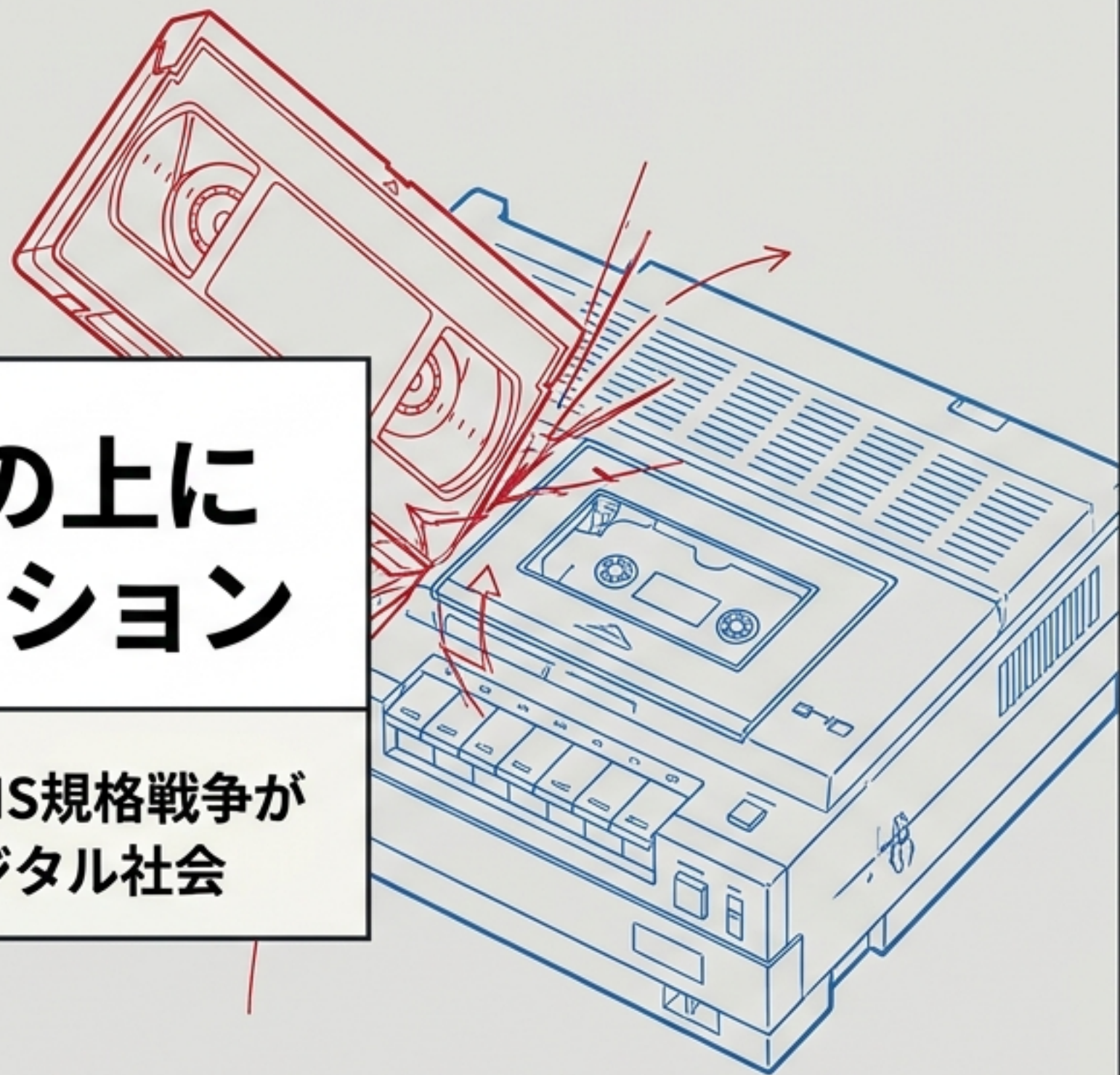


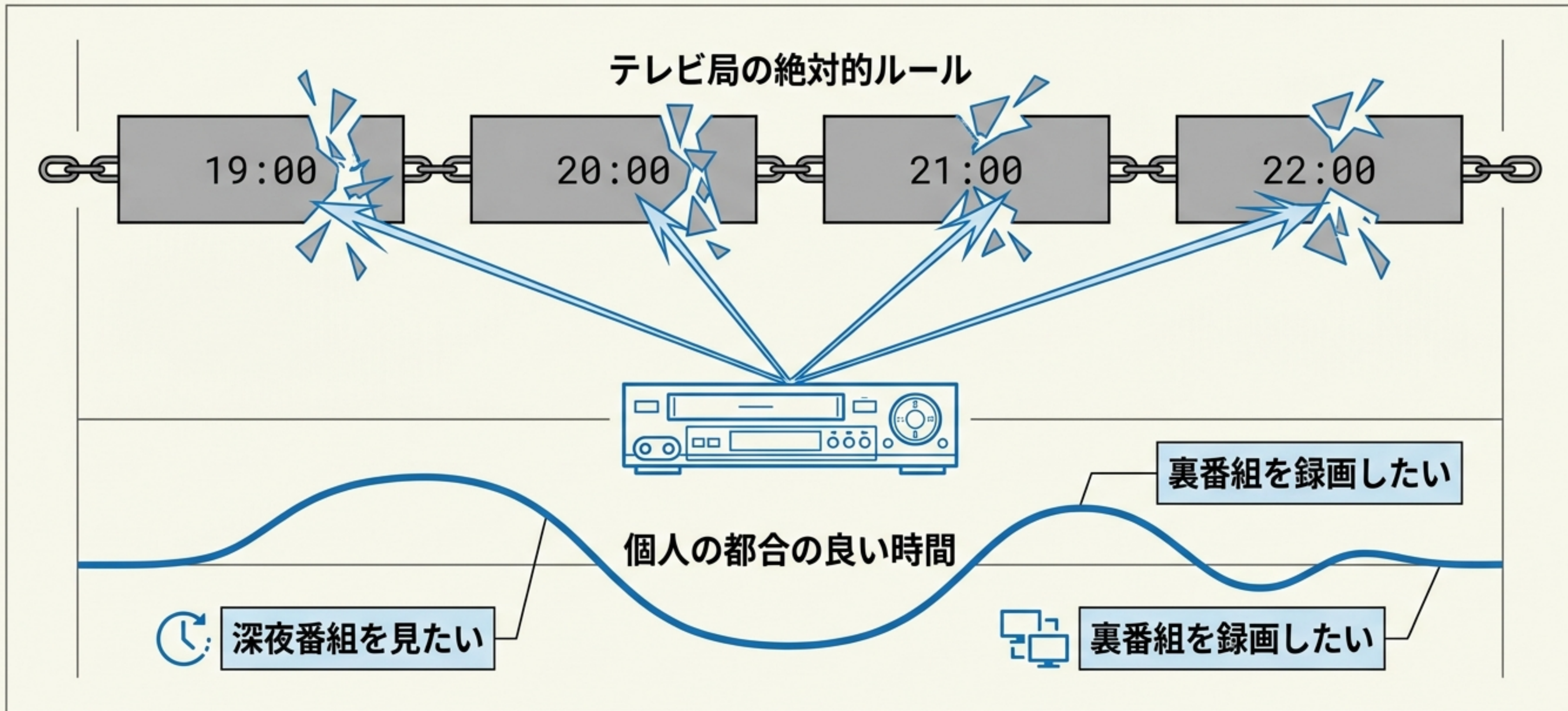


敗者の死骸の上に 咲くイノベーション

ベータマックス裁判とVHS規格戦争が
創り出した現代のデジタル社会

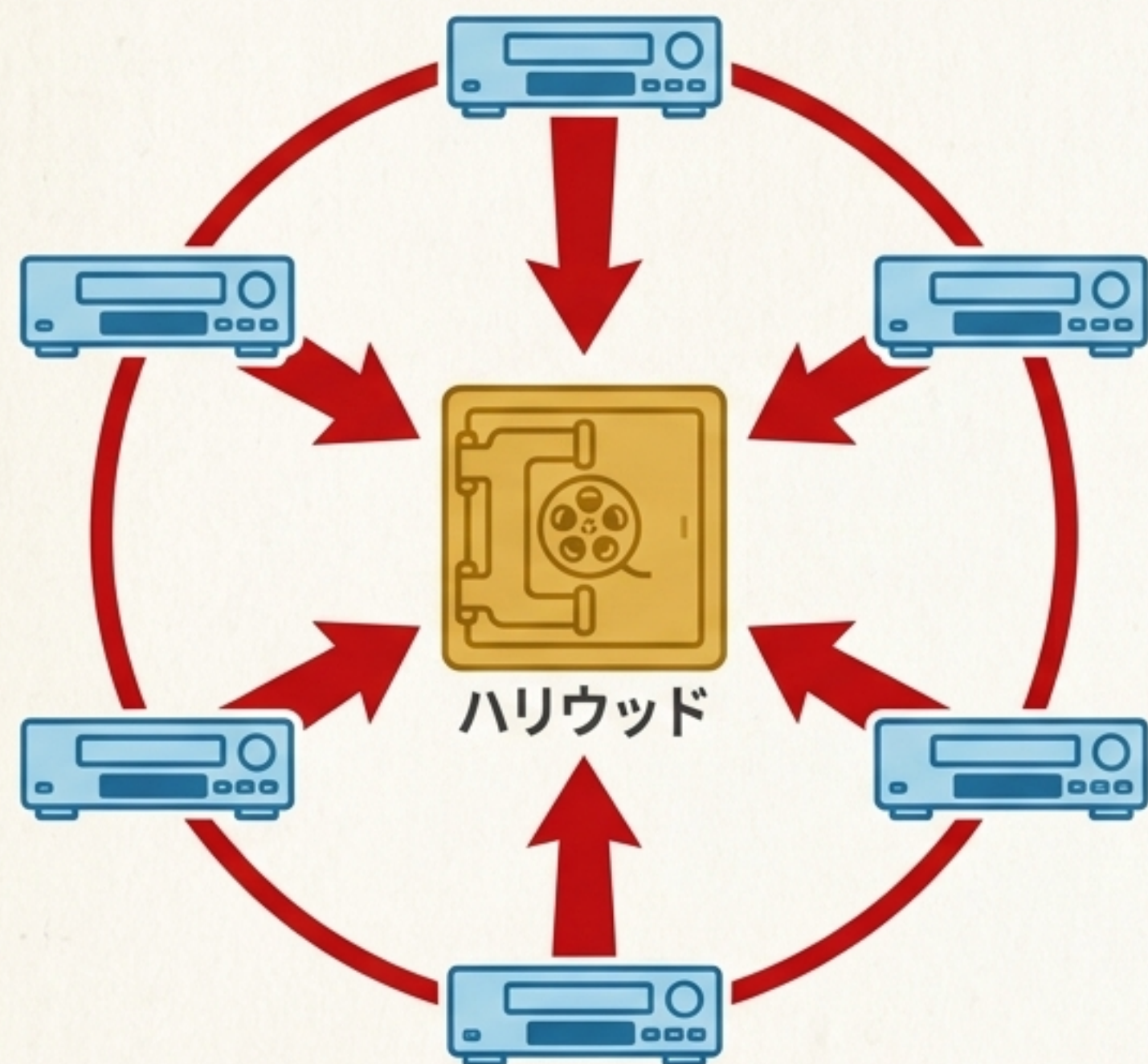


タイムシフト：時間を支配する魔法



家庭用ビデオの誕生は、単なる家電の進化ではない。大衆を「時間」から解放する革命の始まりだった。

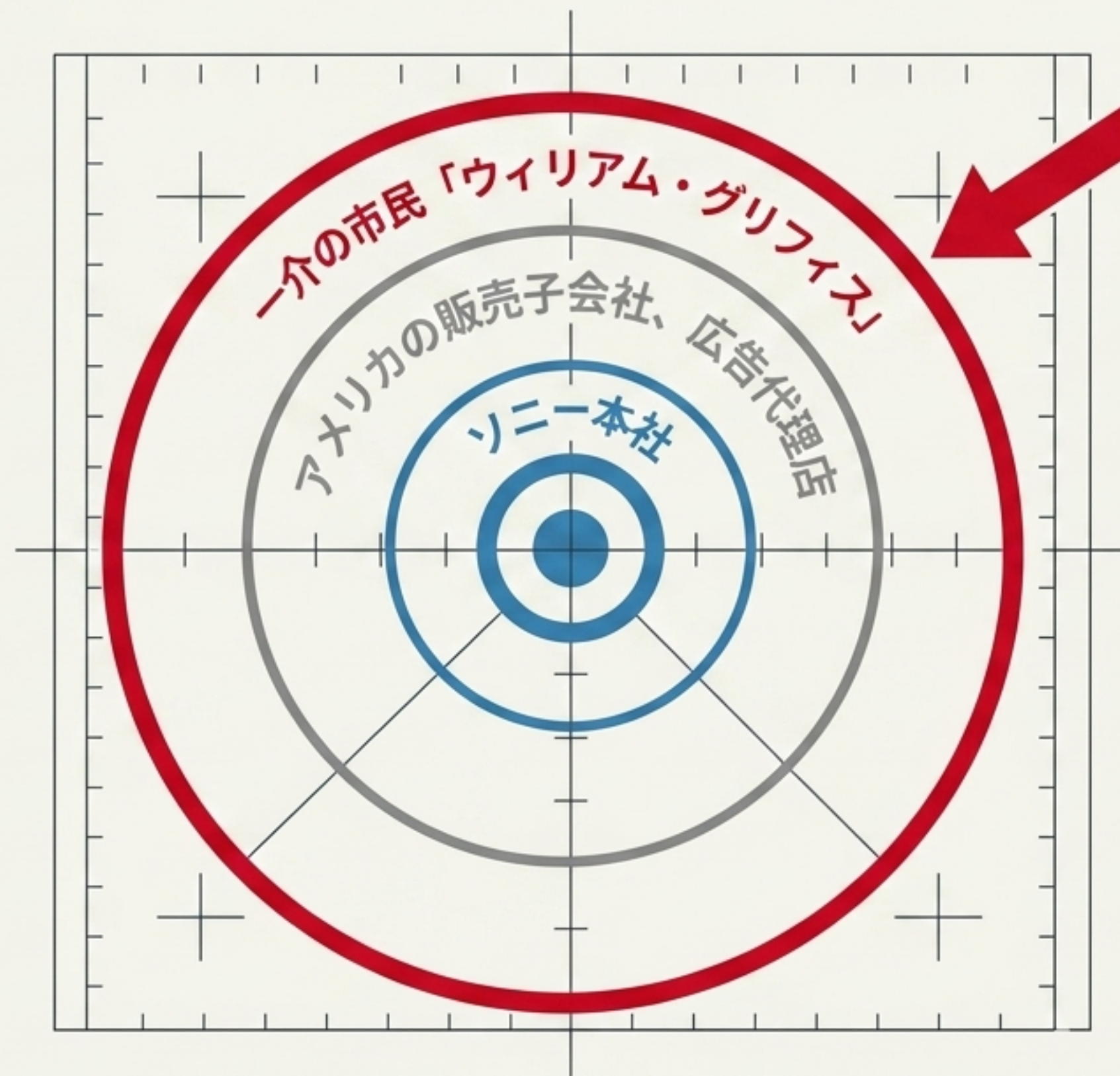
巨大エンタメ帝国の恐怖



「我々が何百万ドルもかけて作った作品を、家庭のテレビでタダで録画し保存するだと？これは著作権という概念を根底から破壊する悪魔の機械だ！」

既存のビジネスモデルに安住する帝国にとって、タイムシフトは「破壊の使者」でしかなかった。

全方位への宣戦布告と見せしめの生贄



ソニーを仕留めるためなら、消費者をダミーの被告にすることも辞さない

争点：

著作権侵害の
「寄与侵害」

(録画機器の提供が
海賊行為の助長にあたるか)

法廷の皮肉：ダミー被告が証明した 「フェアユース」

テープが極めて高価

録画する → 見る → 消す

ライブラリーの構築（海賊行為）は不可能

単なる「時間の移動」 = フェアユース（公正利用）



「最初はライブラリーを作るつもりでした。でも、テープ、テープがあまりにも高価なんです。だからからは、録画して、見て、消す。その繰り返しです。」

1984年：合衆国最高裁、5対4の薄氷の勝利



「ここで引けば、タイムシフトという新しい文化は永遠に潰える。何年かかるだろうが、最行くぞ！」— 盛田昭夫

1979

一審勝訴

1981

控訴審敗訴

1984.1.17

最高裁勝訴

規格戦争：美学 vs 泥臭きリアリズム

	Sony (Beta)	JVC (VHS)
設計思想	技術の美学・最高画質	大衆の欲望・4時間録画
システム戦略	クローズド・自社完結	オープン化・OEMファミリー化
顧客への態度	仕様変更を「妥協」と拒否	泥水をすする覚悟で要求を飲む
最終結果	記録的敗北	全米小売市場の制覇

現場の悲鳴

「ベータの画質が良い？
そんな寝言は通用しない！
小売店はウチの顔も見ないんだ！」

1988年、絶対的ハードウェア神話の崩壊

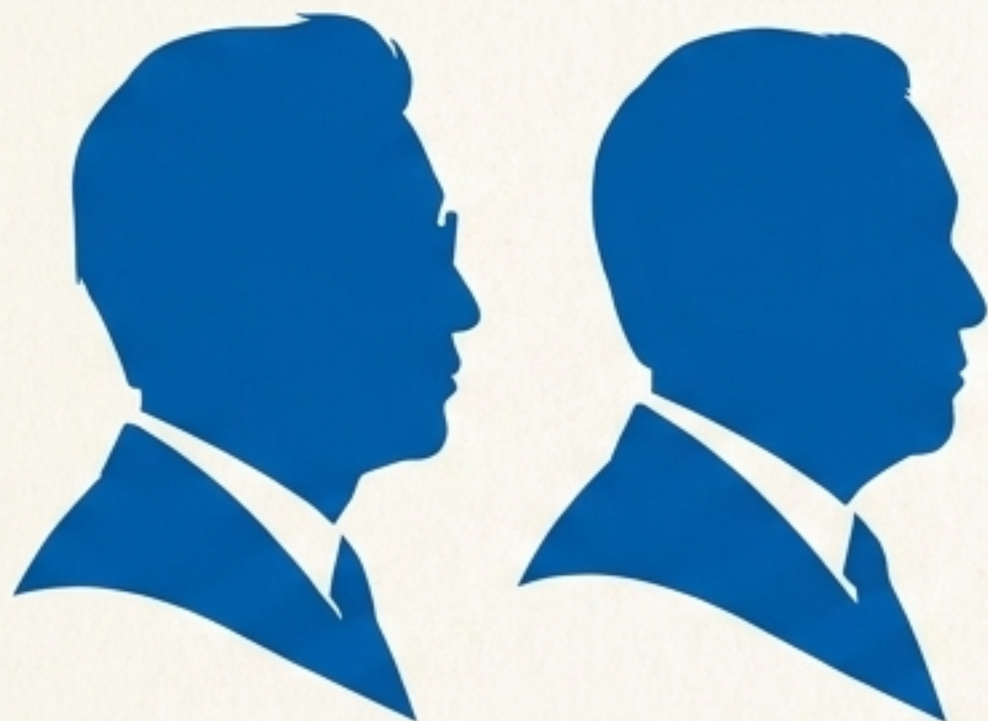


「美学で飯は食えない。海外の従業員を見殺しにはできない。我々は現実を見る。VHSをやる」

— 大賀典雄 (1988)

ビジネスにおける真の敗北とは、市場の現実（リアリズム）から目を背けることである

交わらない道、根底にあった同じ情熱



ソニー陣営（盛田昭夫 / 大賀典雄）
闘技場で文化を守り抜いた男たち

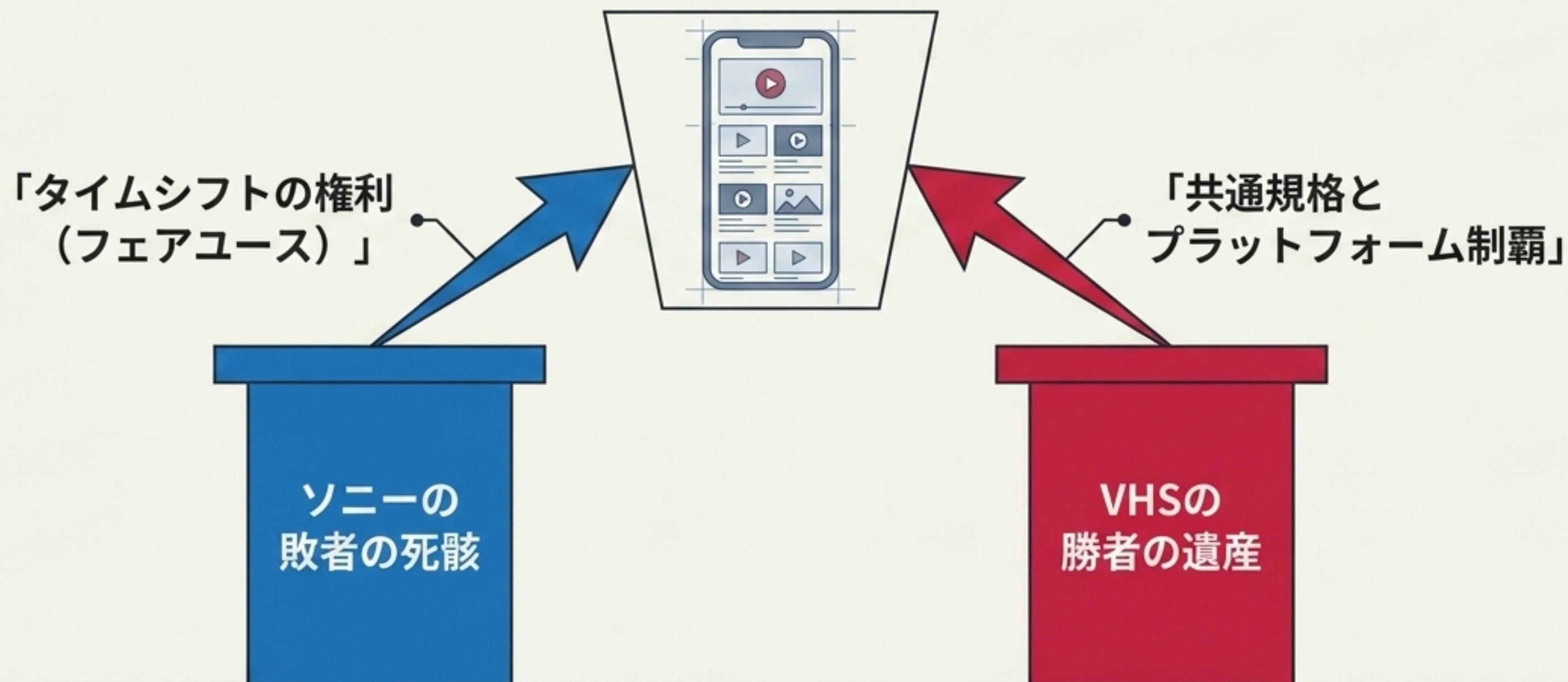


日本ビクター陣営（高野鎮雄）
特許を開放し巨大同盟を築いた男

1992年の葬儀

信じた美学と選び取った戦略は決して交わらなかった。しかし、その根底には共に「大衆の生活を豊かにしたい」という苦しいほどの情熱があった。

パラドックスの統合： 現代ストリーミングの誕生



勝者の「プラットフォーム戦略」と、敗者の「法的思想の確立」。
この二つが揃って初めて、現代の自由なデジタル社会が完成した。

資本主義の荒野から学ぶ、二つの絶対法則



法則 1: 顧客が求めていない完璧さは、自己満足という致命傷になる。

最高の正義と美学を持って、大衆の泥臭い欲望（安さ・長さ）を見誤れば市場では敗北する。



法則 2: 偉大なるイノベーションは、敗者の死骸の上にも咲き誇る。

敗北したソニーが血を流して勝ち取った「判例」がなければ、今日のITの巨人たちは存在しなかった。

歴史の続きを目撃せよ



時に残酷な資本主義の荒野で、命を削った技術者や経営者たちの狂気と情熱。
限界を超えた価値を生み出すヒントがここにある。

<https://www.youtube.com/watch?v=MWhtJVPtqWs>